

**総合科学技術会議が実施する
国家的に重要な研究開発の評価**

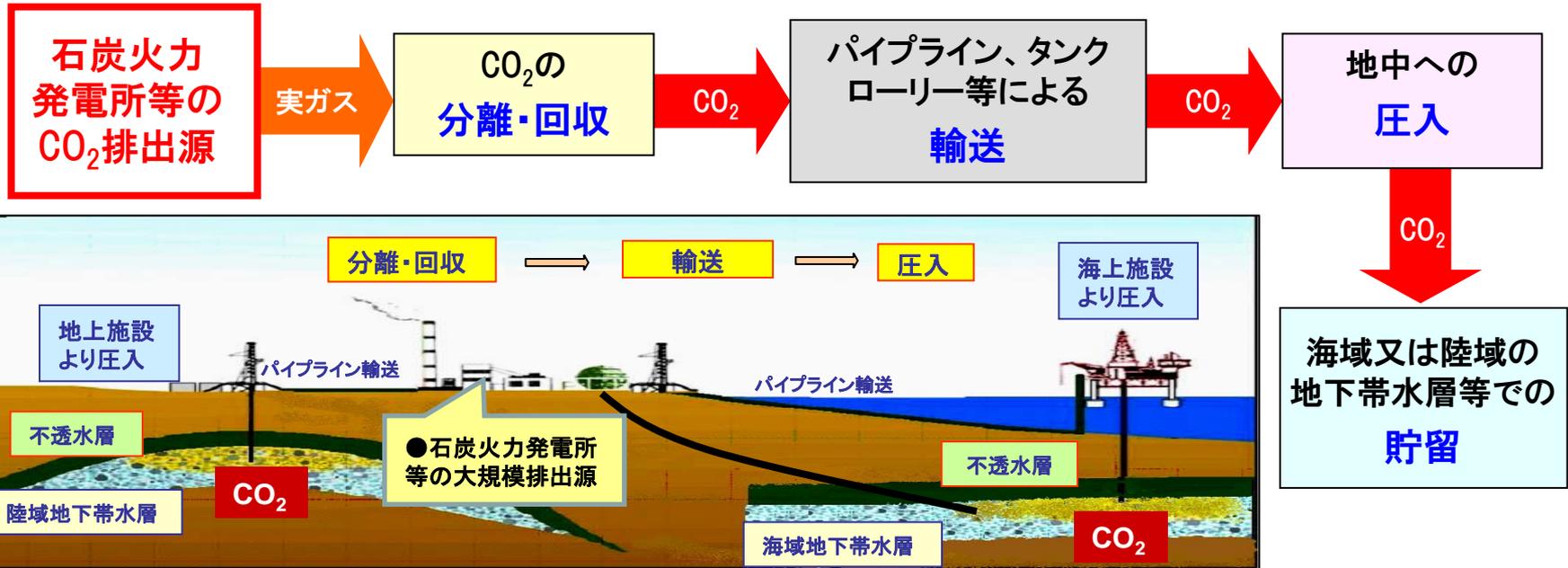
**「気候変動問題対策二酸化炭素削減技術
実証試験」の評価結果(案)**

**平成20年12月8日
総合科学技術会議**

二酸化炭素回収貯留技術(CCS技術)の大規模な実証プロジェクト

(平成21年度～平成25年度の5年間・国費総額約330億円、経済産業省)

- 年間10万トン規模で、分離・回収、輸送、圧入、貯留まで一貫したシステムの実証
- 圧入されたCO₂の長期にわたる挙動の予測シミュレーション技術、モニタリング技術を確立



「低炭素社会づくり行動計画」(H20.7. 閣議決定)

CCS技術:2009年度以降早期に大規模実証に着手し、2020年までの実用化を目指す

「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)第4次評価報告書第3作業部会報告書」(2007.5.)

CCS技術:大きなCO₂排出削減可能性を有する緩和技術

評価の結果

CCS技術の実用化に向けた本実証プロジェクトは、国として早急に取り組むべき研究開発

実施にあたり措置すべき事項

- 貯留地点の選定後、立地条件に応じた具体的な実施計画を適切な検証・評価を踏まえて策定
- 実用化に向けた技術的課題解決のための国内外の関連事業との連携協力
 - ・要素技術に関する他の研究開発の成果を活用
 - ・国外の実証プロジェクトとの国際連携を推進
- 安全性確保や環境影響防止のための体制等の強化と、国民的理解を得るための情報開示の徹底



評価専門調査会において措置すべき事項の実施状況をフォローアップ

評価の位置付け

- 内閣府設置法の規定に基づき、総合科学技術会議は国家的に重要な研究開発の評価を実施し、関係大臣に通知
- 新たに実施予定の国費総額が約300億円以上の大規模新規研究開発については、事前評価を実施

評価の実施方法

- 評価専門調査会に外部有識者を含めて評価検討会を設置し、調査・検討
- 評価専門調査会において評価結果案を検討し、本会議で審議、決定